

The 25th International Costume Congress
Creative Costume Exhibition 2012

HYAKKARYORAN – Traditional Japanese Flowers Patterns

Sachiyo IZUMIYAMA



The 25th International Costume Congress
Creative Costume Exhibition 2012
Date : 22-23 August, 2012
Venue : National Science and Technology Museum,
Kaohsiung City, Taiwan



HYAKKARYORAN—Traditional Japanese Flowers Patterns

This is a Formal dress created by rearranging a Kyoyuzen Japanese Kimono from approximately half a century ago – in a contemporary style. Made of ornate silk fabric thickly in Yuzen Japanese style, the dress is characterized by its pattern of Traditional Japanese Flowers Patterns. (chrysanthemum, tree peony, sweet flags, wisteria, red leaves, plum blossom, pine tree, and what not) The key point of the design the some large drapes in the skirt.

「百花繚乱」

このドレスは、約半世紀前の京友禅振袖を現代風にアレンジ・リメイクしたフォーマルドレスである。素材は絹地織物で、明るめの瑠璃色の地に牡丹、菊、松、竹、梅、藤、菖蒲、桔梗、萩、撫子、桜などの古典花が紅色、薄渋桃色などの色で染められて地色に鮮やかに映えている。光沢感のある縮緬地は古典的な中にも、華やかな雰囲気である。

“きもの”の形からドレスへ変化させるとき、それぞれの花文様を身体のどの位置に配置するかが苦心するところであった。デザインのポイントは前スカート中央から後ろスカートにかけての5段の大きなプリーツである。プリーツは縫いとめることなく、スカートを着用すると自然にプリーツの形となるようにした。

1. 日本の伝統文様からイメージしたドレス

日本で育まれた服飾文化の美意識は伝統文様にみることができる。古くから日本の伝統衣装の装飾には文様がその大半を担い継承され、日本人の基本的感情を表現していると思う。

ここ数年、日本の伝統文様を現代のドレスデザインに取り入れた衣装を制作している。いずれも半世紀以上前のアンティーク着物を再利用し、当時流行した文様を活かすようにしている。今回は日本の代表的な古典花が一面に散りばめられ、華やかな中に気品が漂うフォーマルドレスの制作を試みた。

作品制作から「きもの文様」が持つ大胆でかつ繊細、洗練された優美性を常に感じる。日本の文様が時代を超えて現代人の心を捉えていることも確信できる。それは日本人の精神性や美意識の継承であると思う。若い世代のファッションに、日本の伝統文様が浸透し受け継いでほしいと望んでいる。

2. 第25回国際服飾学会議に参加して

第25回国際服飾学会議は中華服飾学会（台湾）の主催により、アジア圏を中心とした服飾研究者が多数参加して、2012年8月21日から3日間、台湾高雄市の国立科学工藝博物館にて開催された。学会議には第15回大会（於デンマーク国立博物館）から、衣装展示発表による「創作衣装展－ART TO WEAR」が設けられている。

今回の学会議には日本の国際服飾学会から45名の学会員が参加し、口頭発表5件（全体15件）、ポスターセッション11件（全体47件）、創作衣装展16件（全体73件）の研究発表がされた。





「創作衣装展」は国立科学工芸博物館内の、吹き抜けの広いフロアーに国別に展示された。今回は台湾，韓国，日本に加えアメリカ，フランスからの出品があり，充実した内容で若手の活躍も目立つ大会であった。

参考文献

- 1) 2012 25th International Costume Congress: Chinese Textiles and Clothing Association
- 2) 長崎 巖：きもの文様，平凡社，2005